

さん
全国大会出場決定!



女子陸上部のさんは、7月10日、愛知県通信陸上大会で100mハードル(優勝)と、四種競技で全国大会の標準記録を突破し、8月18日から福島県で開催される全国大会への出場権を獲得しました。全国大会での活躍を期待しています。

NO. 373
令和4年7月号

ご飯・パン	30753
牛乳	8652
おかず(主菜)	25100
おかず(副菜)	11800
合計	76305

東海中学校のあ
る一週間の給食に
おける食品ロスを
栄養教諭の三浦先
生に計量してもら
った結果です。

この41kgという数字、何の数字かわかりますか?これは令和二年度の統計で、一年間での日本人一人当たり食品ロスの量です。(総務省人口推計食料自給表より)みなさんも一人当たり、これくらいの量の食品ロスを出しているという計算になります。食品ロスとは、『本来、食べられるのに捨てられる食品』のことです。フードロスとも言われています。この数字は大きいのでしょうか。小さいのでしょうか。なかなか実感がわかないかもしれません。日本全体で合計522万tにもなるのです。これは、中ドラゴンズのバンテリンドーム4杯分以上に相当します。そう考えるとものすごい数字ですね。私たちにとっては身近な問題です。

どうする?
年間約41kg
校長 今枝武司

単位はすべてグラムです。ですから、ご飯・パンは一週間で二〇kg以上、食缶のおかずは二五kg以上です。合計で七六kg以上になります。だいたい私の体重と同じくらいの量の残菜がでるわけです。昨年度はもっとありました。今年も減った方なのです。食べるために作られたものが、食べられることなく捨てられてしまうわけですから、ぜひ、「もったいない」という気持ちを持ってほしいと思います。食品ロスは「もったいない」だけで終わる話ではありません。様々な問題と複雑に絡み合っています。焼却処分するために出る熱から温暖化の問題、作る時の資源の無駄使いの問題、人件費に関わる税金の問題などです。みなさんにはあまりピンとこない問題かもしれませんが、食品ロスを考える上で忘れてならないことは、作って下さっている方への感謝の気持ちです。保護者の方、調理員さん、お店の人など、みなさん、心を込めて作っています。その方への感謝の気持ちは忘れてはなりません。たくさん食べる子もいれば小食な子もいます。小食な子に無理強いすれば、ストレスにもなりかねません。感謝の気持ちをもって、食べられる子が食べるといふように、個人で調節すれば、食べ残しは減らせると思います。

大会コンクール

【市長杯総合体育大会】

団体の部

野球部 対矢作北 ○—四惜敗

女子バスケットボール部 対新香山一四—七三惜敗

男子バレーボール部 対新香山 ○—二惜敗

男子バスケットボール部 対北 三〇—八五惜敗

女子バレーボール部 対矢作 ○—二惜敗

対六美北 二—〇勝利

対六ツ美 二—二惜敗

ソフトテニス部 対北 二—一勝利

対幸田 一—二惜敗

女子剣道部 対幸田北部 一—四惜敗

対幸田南部 二—一勝利

対六美北 〇—二惜敗

九位決定戦 対翔南 〇—四惜敗

男子剣道部 対幸田北部 〇—五惜敗

対幸田南部 二—一勝利

対甲山 〇—三惜敗

対幸田 三—二勝利

九位決定戦 対北 一—四惜敗

男子バスケットボール部 対新香山 一—三惜敗

男子バレーボール部 対北 三—〇勝利

女子バレーボール部 対幸田北部 一—三惜敗

女子バスケットボール部 対幸田南部 一—三惜敗

女子バレーボール部 対岩津 〇—三惜敗

卓球部 対額田 一—三惜敗

個人部の部 対附属 三—〇勝利

女子陸上部 対幸田北部 一—三惜敗

優 勝 一〇〇 m H 〇〇〇〇

女子水泳部 〇〇〇〇

卓球部 〇〇〇〇

準優勝 〇〇〇〇

ベスト十六 〇〇〇〇

ともに西三大会出場決定



【全日本中学通信陸上愛知県大会】

優 勝 一〇〇 m H 〇〇〇〇

第二位 四種競技 〇〇〇〇

※ さんは八月十八日から始まる

全国中学校陸上競技大会(福島県)へ

の出場権を獲得しました。

【中部日本吹奏楽コンクール 西三河北地区大会】

金 賞 吹奏楽部

【西三河中学校総合体育大会】

女子陸上部

優 勝 一〇〇 m H 〇〇〇〇

バドミントン

優 勝 男子シングルス 〇〇〇〇

第四位 女子シングルス 〇〇〇〇

ともに県大会出場決定

思いを走りに

女子陸上部

七月九・十日の二日間で行われた県大会。種目ごとに設定された標準記録を突破すれば全国大会への道が開かれます。大会が近づくにつれ、向かい風への心配や応援してくれている人達の期待に応えられるかというプレッシャーがあり、少し不安な気持ちでした。しかし、スタートラインに立った時には『絶対に十四・八〇を切る』という強い気持ちでした。ゴールを駆け抜け速報タイムを見ると十四・五〇。全国大会出場が決定した瞬間でした。また、四種競技でも自己ベストで全国大会出場権を獲得でき、とても嬉しく達成感を感じました。

私が全国大会出場を決めることが出来たのは、私の力だけではなく、先生やコーチ、両親など周りの人から力をもらえたからだと思います。全国大会では、これまでサポートしてくださった人達への感謝の気持ちを走りにし、全力で戦ってきます。

わたしの歩み

視野が広がった一学期 一年三組

僕が東海中学校の一員になってから、あつという間に一学期も終わりに近づき、長い夏休みに入ろうとしています。

入学前、中学校は小学校とは違って、人がとても増えると思っていたため、クラスに友達ができるか不安でした。そこで心がけたことはあいさつです。毎日、先生方やクラスメイトに元気よくあいさつしました。あいさつは自分も相手も明るい気持ちになり、いいと思ったからです。その効果もあり、僕にはたくさんの友達ができ、学校生活がとても楽しくなってきました。

ある日、岡崎特別支援学校との交流会があることを知りました。小学校で交流会をしたことはありませんでしたが、障がいについて調べたり、車いす体験をしたりしたことはありました。そのときに分かったのは、障がいはいつの個性であり、かわいそうではないということです。東中生にも、そのことを広げていきたいと思い、実行委員に立候補しました。自分でいいだろうかと不安な気持ち

もありましたが、自分のできる限り、相手の気持ちになって考えたり、提案を出し合ったりして、岡特生と東中生の両方が楽しめる会になるように計画しました。



交流会では、岡特生の特技を知りました。障がいがあっても、前向きに頑張っているすごいと思いました。交流会までの準備も、当日の司会も最善を尽くしたので、交流会が終わった後、とても気持ちがよく、自然と笑顔になりました。みんなにとっても、楽しめる会になったと思います。

二学期は、体育大会や文化祭などの行事があります。積極的に参加し、みんなが楽しめる行事を作っていけるように頑張りたいです。

学級代表を経験して

二年四組

二年生になって僕は学級代表を務めました。学代を経験したことのない僕にとって、新たな挑戦でした。しかし、いざやってみると、三十九人の前で話することは、自分で言ったことかどう思われるのか、どのような言葉遣いをしていいのか、目立ちたがり屋だと思われなかなどが気になり、

とても心配でした。ある日、先生から「給食の時手洗い場が密になってい」と指摘されました。僕はそれを委員会ですべてとして挙げ、二年生の学級代表で解決案を考えました。それはクラスごとに手洗いをする時間を分けるというものでした。ですが、それが続いたのは三日だけでした。

みんなはこの取り組みに前向きではなかったのです。僕たち学代の意図が伝わっておらず、指示されているだけのような印象になってしまっていたのだと思います。このことから学代だからといって、みんなを思うように動かそうとすることは間違いだと思いました。みんなの気持ちを考え、みんなが納得できるように、自分の考えを押し付けるのではなく、自分の考えを伝えることが大切だと学びました。

今僕はクラス

の前で話すときはみんなの表情を確認して話すように心がけています。みんなはもっと真剣に



話を聞いてくれるようになりました。テスト週間の放課の過ごし方をどうするべきか話し合い、自分の考えをみんなに納得してもらえたことも

ありました。相手の気持ちを考えて自分の考えを伝えられたことは、自信につながりました。

学代の役目は、クラスのみんなのそれぞれ持っている意見をまとめ、どうすれば問題を解決できるか、みんなで考えるためのサポートをすることだと、今は考えています。

部活動や学校生活の中で、これから中心となって活動することが多くなってきます。学級代表の経験で学んだことを生かし、他の人の気持ちを尊重してお互いに高め合っていきます。

小さいなことを小さな輝きに

三年一組

私には輝ける場所があります。それは、裏方で頑張る仕事です。行事の実行委員の中でも、司会や劇を演じる人ではなく、照明や舞台の準備や片付けなど、教室では、窓の開閉や机の整頓、配付物を配ったりお休みの子のプリントをしまったり。誰にも気づかれないかもしれないけれど、必要な仕事をするのが好きです。私がささいなことを一生懸命頑張れるのは、誰かの役に立っているという思いや、自分の長所だという自信につながるのがうれしいからです。

人のために働いている時には、「笑

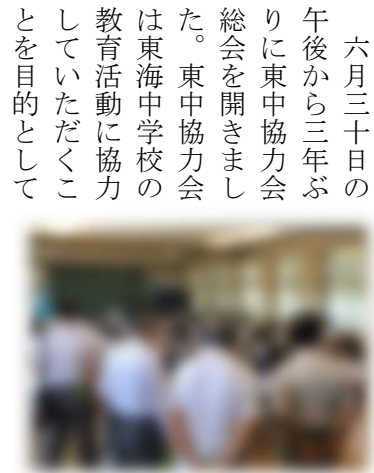
顔になってくれるかな」「助けになればかな」と相手のことを考えたり、落ち込んでいる友達と接するときには、「元気になってくれるかな」と考えたりするだけでなく、いつも自分がしてもらっている感謝を伝えたりしたくなります。

私はいつも笑顔で過ごしたり、手伝いを自分で探したりすることを心がけることで楽しく生活ができています。私は学校の中で仕事を責任をもつてもっと楽しく続けられています。これらを当たり前にし、当たり前のことをしっかりとやれば、今よりも未来がもっと明るくなれるかもしれないと思うからです。

頑張ってもうまくいかないこともあります。勉強を頑張っても結果が出ず、不安でいっぱいになることもあります。でも私は、「自分なんて」とか「自分には」と、自分のことを低く見ず、自分にしかできない当たり前のことを当たり前にし続け、将来の道を明るくしていきたいと思っています。

私は、この世の中が、感謝や笑顔が絶えない世界、生きることを前向きに頑張れる世界、一人ひとりの長所が社会に出て輝ける世界になってほしいと願います。これからも頑張っていきたいです。

東中協力会総会

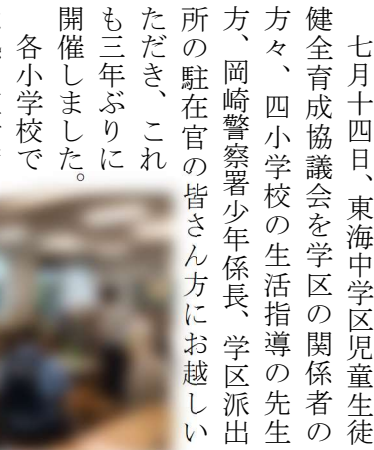


六月三十日の午後から三年ぶりに東中協力会総会を開きました。東中協力会は東海中学校の教育活動に協力していただくことを目的として総代さん方で構成される会です。

総会では協力金の会計報告と学校の現状等について報告しました。その後、教室を回って授業の様子を参観していただきました。本校が取り組んでいるチーム学習の様子やタブレットを巧みに操作して課題を追究している様子などを中心に観ていただきました。時折、生徒にも声をかけていただき、総代さん方は楽しそうな生徒たちの様子を見て安心して帰っていかれました。六月十一日に行った「夢を叶える三つの魔法」の教育講演会は東中協力会の協力金を使わせていただきました。ありがとうございました。

- ・ 昨年度東中協力金の使途項目
- ・ F組教室塗装ペンキ代
- ・ 教育講演会講師料
- ・ 講演会感想、礼状送付料金

健全育成協議会



七月十四日、東海中学区児童生徒健全育成協議会を学区の関係者の方々、四小中学校の生活指導の先生方、岡崎警察署少年係長、学区派出所の駐在官の皆さん方にお越しいただき、これも三年ぶりに開催しました。

各小学校では熱中症対策としてナツプサック登校をしていること、登下校ではマスクを着用していることなどの情報が、東海中学校からはSNSで勝手に動画を送ったトラブルや公園での危険な遊びについて情報を提供しました。

七月二十一日から夏休みが始まります。東海中学区の児童・生徒が楽しく健やかな夏休みを送ってくれることを願っています。

おやじの会草刈

六月十八日、おやじの会の方々と生活環境委員会の保護者のみなさんで校庭の草刈りを行っていただきました。三十人以上の方々に参加

いただいて、ポリ袋五十袋分の草を取っていただきました。汗ばむ天候の中、本当に一生涯懸命に取っていただきました。

※東中協力会、健全育成協議会、おやじの会など、こんなにも多くの方々に支えられていることに感謝ありがとうございます。

ありがとうございました。

今後の予定

- 七月
 - 二三日(土) 父母と教師の集い
 - 二六日(火) おかぎキッズ
 - 二九日(金) JRCトレセン
- 八月
 - 六日(土) 資源回収 (竜谷・山中・本宿)
 - 八日(月) 生徒市議会
 - 十日(水) 学校閉庁日 (十六日まで)
 - 二十日(土) 資源回収予備日
 - 二八日(日) 地域総合防災訓練
 - 二九日(月) 第二学期始業式
 - 三十日(火) 避難訓練
 - 三十一日(水) 教育研究大会 (午前中三時間授業) 通常授業、給食開始

やまなみ

教育随想

できることを一生懸命に

体育主任 鈴木 薫子

多くの部活動で市長杯が終わり、三年生が引退を迎えた。どの生徒も表情は晴ればれとしており、やり切ったという充足感に満ちていた。

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止や異常な暑さによる熱中症対策のため、部活動時間が縮小される場面が多かった。生徒たちのモチベーションが維持できるかと危惧したが、それはいらぬ心配であった。三年生のおかげである。

彼らはできないことを嘆くのではなく、残された時間で何ができるかを考え、最善を尽くしてチームを牽引してくれた。苦しい場面では言葉で鼓舞し、時には自らが動くことで後輩を導いた。その姿に励まされ、次は自分たちの番だと意気込む二年生や、憧れのまなざしで三年生を見つめる一年生の姿に、今後の東海中の部活動も安泰であると確信した。

これから試合やコンクールを残しているみんな、君たちならば大丈夫。この状況下でも前向きに頑張れた自分たちに誇りをもって挑んできてほしい。